

婚姻決定に関する地域格差とパーソナリティ変数

迫田さやか[†]

我が国では晩婚化・未婚化が大きな社会問題のひとつとなっている。日本では、高学歴化あるいは女性の社会進出が結婚行動に及ぼす影響について分析を行った研究が進んでいるものの、結婚行動を決定する地理的要因あるいはパーソナリティ要因についての実証分析は少ない。Beckerをはじめとして、Angrist(2002)などでは結婚決定要因について地域の異質性を考慮することが主張されている。本稿では、結婚決定要因について、結婚の供給側側面とその経路について、都市規模別に見た既婚率の分析、地理的・社会経済的要因についてロジット回帰分析ならびにパーソナリティ項目として“Big Five Factor”を加えたロジット回帰分析の3つの分析を行った。

都市規模別に見た既婚率の分析は、先行研究同様に、女性は都市規模が小さくなるほど既婚率が上昇するのに対し、男性は都市規模と既婚率の間に逆U字型の関係が見られることが確認できた。

次に、結婚の供給側側面および経路に関してロジット回帰分析を行った。男女比が高い場合には男性の婚姻率が低く、女性は婚姻率が高まることが明らかになった。しかし、男女比をコントロールした場合には、男性の婚姻確率は正の値を示しており、都市規模と既婚率の間の逆U字型の関係が見られないことが確認できた。

また多くの方は結婚に際して「人柄」を優先することより、パーソナリティ項目として“Big Five Factor”を入れて、結婚決定要因についてロジット回帰分析を行った。この結果、男性では、積極的に人と接することをいとわない性格である「外向性」がわずかに正の値を示し、女性では徹底的に物事を進める「誠実性」、人と接することをいとわない「外向性」の2つの要素において婚姻確率が高く、新しい経験や知識を追い求める女性、精神的にバランスが不安定である女性の婚姻率が低いことが明らかになった。

Reference

Angrist, J.(2002) “How Do Sex Ratios Affect Marriage and Labor Markets?: Evidence from America’s Second Generation” *Quarterly Journal of Economics*, 117, pp.997-1038

[†] 同志社大学経済学研究科博士後期課程